



「寒い、寒い冬の夜」「遠い、遠い、遠い、星の世界から」など、繰り返しの言葉と美しい景色の描写が心地よい眠りへと誘います。自然と一体になるような気持ちで読みましょう。

● 1924年（大正13年）1月7日「時事新報」発表。

ある夜の星たちの話(1)

小川未明

それは、寒い、寒い冬の夜のことでありました。
空は、青々として、研がれた鏡のように澄んでいま
した。一片の雲すらなく、風も、寒さのために傷ん
で、すすり泣きするような細い声をたてて吹いてい

る、冬のことでありました。

はるか、遠い、遠い、星の世界から、下の方の地
球を見ますと、真っ白に霜に包まれていました。